

東近江市でつながりをひろげるためには

～まちづくりに必要な女子力～



協働のまちづくりを進めるためには、「コーディネーター」といわれる、誰かと誰かをつなぐ存在が重要だと言われています。話が好きでいろいろな人を巻き込むことが得意な女性は、コーディネーターに適しているとも言われています。しかし、地域のつなぎ役といわれるまちづくり協議会には、女性の役員が少ないのが現状です。そこで今回、まちづくり協議会の一員として、地域で活動されている3人の方に、女性の視点から見た活動のヒントをお話いただきました。

<プロフィール>

森田：3人の娘と7人の孫、長女夫婦と暮らす。蒲生町職員として35年間勤務中、蒲生町病院（現：蒲生医療センター）に長年勤める。その後、人権や男女共同参画、福祉全般の仕事に携わる。市町村合併を前に退職。現在は、蒲生地区まちづくり協議会あかね部会部長。

福田：3人の子どもがいる。仕事はテキスタイルデザインの仕事をし、その後結婚して安土の染色工場で働く。家で仕事をしながら3人の子育てに奔走。生協活動も行う。現在は、湖東地区まちづくり協議会副会長。

西川：当時の財団法人滋賀総合研究所に就職。結婚を機に東近江市に住む。出産を機に退職し、育児を楽しんでいたが、びわこ学院大学に勤務。現在は、地域のNPO支援センターであるしがNPOセンターの事務局長。中野まちづくり協議会副会長。

村田：今回の対談のファシリテーター。東近江市役所まちづくり協働課に勤務。

3人3様の地域の関わり

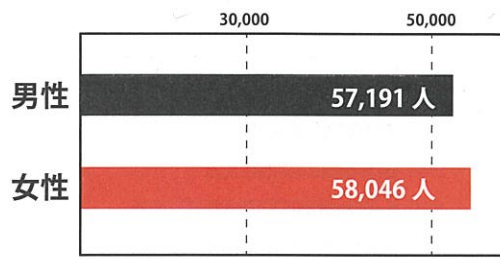
村田：では自己紹介を。

森田：孫育てのかたわら、蒲生地区まちづくり協議会でシニア世代の仲間作りや、婚活などの活動をしています。活動をする中で、蒲生地区がなっていていい地域かと気付くことができました。

福田：湖東地区まちづくり協議会の副会長は、紙芝居を地域ですていたことがきっかけで声がかかったと思います。紙芝居を通じて、小学校やデイサービスにも行けて、地域の現状も見ることができるようになりました。最初は30人くらいのメンバーで、女性もいましたが、回を重ねる毎に減って、今は女性は1人、このままではまずいねという危機感があります。

西川：中野地区まちづくり協議会では、設立準備会の時に定期的に集まりをしていて、とても興味があって、準備会へ顔を出させてもらっていました。最初は30人くらいのメンバーで、女性もいましたが、回を重ねる毎に減って、今は女性は1人、このままではまずいねという危機感があります。

東近江市の人口 (2016.03.01 現在)



す。まち協で活動している女性が少ないのは共通の課題では？

福田：まち協の中で女性が運営に関わっているところはまだまだ少ないですよ。

西川：(まち協)全体の状況はどうですか？

村田：役員をしている女性は少ないですね。

森田：蒲生まち協の立ち上げについては、旧町時代に区長会を中心に議論を重ねてこられた。そんなこともあり、まち協設立準備会には、市町村合併協議会の女性委員さんが参画されたと聞いています。日赤奉仕団とかは、女性の方が関わっ



直面したことに関して動き出すのは、お母さん達。福田 純子

ておられるのに、まち協には女性が少ないですね。
村田：女性だけが集まっている団体はありますよ。
森田：そうそう。でも、まち協は自分が行くところじゃないと思っておられる人が多い。
福田：湖東は、コトナリエがきっかけでまち協へ入られた方が多い。コトナリエ自体が好きなのやイベントが好きなの女性が集まっていた。でも、会議が多くなり、面白くないと言っておられる人も多い。
西川：会議に出ていると、それは男性側の話だと思ってしまうと良くありますね。
森田：まち協の会長の選出方法を議論する場があって、会

長は自治会長の経験者にしようとかいう話になって、思わず、「それはあかんやろ」と限られた人しかしてない上に、女の人を排除することになりますやん。」と言ってしまったことがあります。
西川：「女なんか来るところじゃない」というなら対抗できるけど、無意識で「女の人に参加しない」と言うのは違うのでは？と思います。若い人が来ないのも同じだと思います。
村田：女性の組織の作り方はどんな感じなんだろう。
福田：周りに声をかけることができないのが女性。上から目線で言わず、「みんな手伝って」と言える。女性は男性にも若者にも「ちょっと来てよ」と言えるけど、男性は苦手じゃないかな。
森田：ただ、女性は見切り発車な時もある。男性はシミュレーションしてから動くよね。蒲生では、男性女性関係なく、興味がありそうな人に声をかけて活動しています。
西川：今のままだったら女性



湖東地区まちづくり協議会にて、お母さん達が企画しているまちカフェの様子

は増えないなと感じます。
福田：若いお母さんたちが子どもを連れて来たら嫌がる男性が多いですよ。10年先、20年先にまち協を支えてくれるのは、こういう人たちだから大切にしたいですよ。まちづくり協議会の交流会もはじめは、女性3人でしたよね。でも今は、だんだん増えてきて、1テーブルくらいになっただけかな。
森田：最近では地域や、いろんな分野で女性が活動することに居心地が少しよくなった気がしています。男女関係なく、人としてみてくれる時代になってきたのかな。

西川：変わってきているなあと思います。ただ年配でもフェミニズムの方もいるし、若い人でもそうでないこともある。でも、学校教育では、家庭科も男女共修だし、そういうことから少しずつ変化していると思えますね。
福田：障害をもつ子の親の会とかいろいろな会を発足しようとする時に立ち上がるのはお母さんがほとんど。直面したことに動かし出すのは、お母さん達で、上手に仲間を作っている。
森田：会議で男性の多い部会と女性の多い部会では、全然違いますね。男性は、夢を語っているの、それはそれでいいが、女から見ると現実はどうなの？と思う。女性は、自



合同でする事業が増えていったらいいと思う。森田 初枝

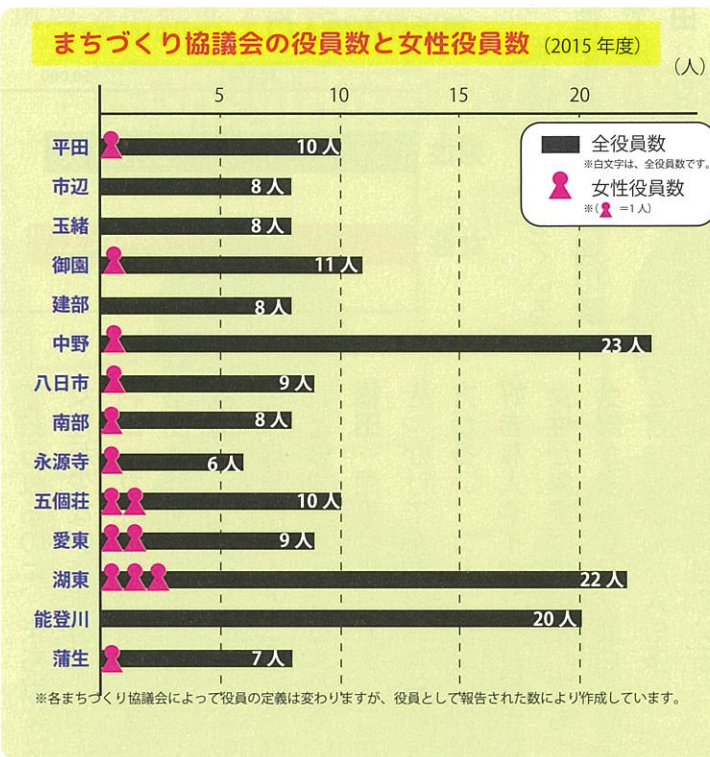
分たちでできることや、生活に密着したことをしっかりと見つけ、やっているなというのがある。な場面が目につく。まち協に入ると男と女の違いはこれだと思えました。病院に勤めているときはそうは思わなかった。女性の職場でもあり、お医者さんも女とか男とかではなく職員として認めてくれました。

福田：私は組織の中で働いたことではないのでわからない。自分の責任の世界だったので。

森田：3人も全然環境が違いますね(笑)

女性が地域で活動できるしかけをつくりましょう。

西川：若いときに自分が主になる仕事をしてこなかったなど、社会の中で経験をしないといくと、地域に出てもできないんじゃないかな。多くの女性が補助的な仕事しかしてこなかったから。**森田**：確かに。企画するのが面白いという人と、お手伝いはするが、スタッフとかは嫌という人。事業をするときにはそこを上手にとりいれるといいのかな。**福田**：以前は各自治会から出なくてはいけない婦人会があった



蒲生の縁側カフェでコーヒーを入れるシニア男性

が増えていったらいいなと思う。**福田**：知り合ったらつながっているし、いろいろ教えてもらえるし、横のつながりができて良かった。**西川**：別々で事業をしたとしても同じテーブルについて、今どんな感じ?と話をすることが大事。**森田**：防災とか、環境とか。生ゴミの堆肥化とか。情報交換しながらやるとよりよいものができる。**村田**：無理なく集まる場をつくるにはどうしたらいいでしょう。**西川**：言い出しっぺがそれをしていないといけないと思うとできない。「とりあえず集まる」くらいでもいいですね。**福田**：選ばれた人が委員会をするというのはやめて、自主的な会にできたらいいな。

の生活支援に進めようとしています。対価をいただくのはどうかと最初は思ったけど、シニア世代の仲間作りで誕生した応援塾さんは、縁側カフェで、コーヒー1杯100円をもらっています。1年間でけっこうな金額になり、それを地区社会福祉協議会に寄付をし、活動の範囲を広げている。地域の拠り所も、対価もらうてもいいんだな、と思うようになってきた。よその家に行くときと違うけれど、コーヒーを飲みながら、話して帰れる場がある。対価をいただきながら、スタッフに、交通費くらいは払えるかと続けられるのかな。**西川**：ただでもらうことに慣れてはいけないと思う。お金を払うことに慣れていかないと法外な金額ではなく、少なくとも払って参加するということが



「とりあえず集まる」くらいいいですね。西川 実佐子

が私たちの地域では、なくなりました。婦人会の役員になり、トッポとなって、段階を踏んで地域で成長するような仕組みがあった。女性が仕事、家庭、地域へ出て社会性を身につけないと課題を見つかり、ボランティアをする意識にならないんじゃないかな。

西川：草津市の協働提案制度で男女共同参画の活動で「パールプロジェクト」というのがあって、市の審議会とか委員会に女性が少ないので、女性を送りこむような活動をしてきた。勉強会や市の施設見学、議員さんと一緒に話し合う場を作ったり、公募委員募集の情報なども流し、3、4人くらいの女性が実際に入られた。その成果発表会に出席した時、子どもが走り回っていたりして楽しかった。

こういうのがないと。男性社会だと子どもが騒ぐと「うるさい」と言われる。来たらダメというのではなく、「子どもがいる環境」を面白いと思えないと。

村田：そういう女性が地域に出るようなプロジェクトがあってもいいですね。

西川：地域の課題を見つけてというのが地域デビュー。自分がやりたいことが地域の活性化に繋がるというのはあるけれども、地域課題に、どう気づくか。草津では、そんなところに議員さん出て来てくれるのかなと心配されたそうだが、来てくれたし、勉強になったといっていた。そういうことでできることはあるかなと思う。

森田：26年度にまちづくり協議会が市内で共通する課題について合同で実行委員会を立ち上げて婚活をさせてもらった。はじめは各まち協さんから選出された委員の意識がバラバラだったが、徐々にまとまっていく事業もできた。その時、あるまち協の事務局局長さんが、「合併したんだから一緒にやろう」と言ってくださって、今も継続しています。他にも同じような課題について、合同で事業

にしないと続かない。いつまでも補助金や助成金はないので。**森田**：田舎の人は義理堅いので、電球一つ変えても、過分なお礼を持って来られる。だから少しの決められた金額を支払う方が、精神的にも経済的にも負担は少ないと思う。

「自分のために」から

「地域のために」変化していく

福田：防災シニアリーダー募集のチラシを回覧で回した時に女の人の応募が多かった。そういう女の人をどう取り込むか、1人暮らしが多いので、地域のためにというより、自分のためにという目的で参加される人がいた。そういう受け取り方もあるのかと気付かされた。

森田：自分のために講座を受けているうちに、地域のためにとなくなっていいですね。**村田**：参加するきっかけは、自分のためにと思って参加する。それがキーかなと。

西川：まず、自分が知識をもっているとかの時に使えるから大事。それで地域のことも考え、てくれたらめっけもん、防災は、

ここで対談をしました

湖東地区の古民家を活用して、地域の居場所づくりをおこなっている「こもれ日小田刘家」さんを利用させていただきました。この古民家は、築150年ほどの歴史があり、昔懐かしいおくどさんや、内蔵などがあります。毎週水曜日には、巻きずしづくりや、歌の会など様々なイベントを開催中です。ぜひ一度覗いてみてください。

住所：東近江市小田町352
TEL：090-3288-6580

(世話人 井田久美子)

※家の修繕、ピザ窯づくりなどに協力いただけるボランティアを募集中です。



まちづくり協議会 ～協働物語～

それぞれの地区での課題を解決するために活動してきたまちづくり協議会。しかし、地区が違って共通の課題をみんなで解決することができないかと生まれたのが、合同の実行委員会。テーマごとに実行委員会形式で各まちづくり協議会が力を合わせて行う地区を超えたつながりの第一歩です。

テーマ

「婚活」

